

申請者名：特定非営利活動法人ロボロボ・Club

事業名：小中学生向け ロボット・プログラミング教室 事業

審査会では、運営に携わる学生の皆さんがプレゼンテーションをされました。大変明確で本事業に対する積極的な姿勢が感じられるものでした。特に、定期教室だけではなく、出張教室において、子どもたちの行動や喜びの発見などから、自らの事業の有益性を感じ取ったこと、それゆえに、出張教室を増やしていきたい、という説明には説得力がありました。

子どもたちと教室を実施する学生双方にとって学びの大きい事業であることがうかがえました。基金21の補助金は、そのような団体の新たな挑戦を応援することを重視している点から、採択とさせていただきます。

このような観点から、事業1である定期教室は、従来から進められてきた事業であり、プレゼンテーション時の解答からもその旨示されたため、本補助金対象から外すことにしました。

一方、「経済的余裕が無い家庭の子にも科学への興味や未来の夢を持つ機会を増やすことを事業2出張教室の成果に書いていただいている点に大いに期待するところです。どのようにそのような対象とする子どもたちに出張教室を届けることができるのか、よくご検討のうえ進めていただくこと、そして、できるだけ、当初の計画通りの回数をこなしていただくことを期待しています。

さらに、本事業は収益の得られる教室事業ですから、今後の持続可能な事業モデルの構築を念頭におきながら進めていただきたいと思います。

申請者名：NPO法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ

事業名：（変更）子どもの権利に関する小冊子作成事業

増加を続けている不登校の子どもたちの背景には、多様で複雑な課題があり、それらを理解して子どもに寄り添える大人のつながりをつくることはとても重要です。

ご提案いただいた「事業1」の小冊子作成においては、「子どもの権利条約」の視点から、不登校の「子どもの権利」についての権利憲章的な提案であり、単なる団体の活動報告書や対応マニュアルとは異なる点で、大いに意義があると認識します。この理解と、事業内容を判断し、単年度事業として「事業1」を採択させていただきます。一方、「事業2」に関しては、すでに自立された事業のため、不採択とさせていただきました。

小冊子の内容に関しては、これまで地道に培われたご経験から、子ども自身

の目線に立ち、子どもにとって大切なことを、当事者の立場から発信されることを期待しております。

また、今後補助金事業として冊子を作成するにあたり、投薬の是非等医学的見地が必要な内容を記載される場合には、客観的に判断できる専門家をいれるなどして、より説得力のあるものをつくっていただきたいと思います。

他方、補助金終了後の事業継続を意識した、「ビジネスモデルの確立」には課題があると思われます。特に、同様の課題解決に対して事業展開している他機関との連携や、小冊子の配布予定先である地域の学校や、学童保育等の関係機関への戦略的な配布方法などについてはしっかりと整理し、事業へ取り組んでいただきたいと思います。

- ・ 申請者名：特定非営利活動法人パノラマ
- ・ 事業名：高校図書館内居場所カフェ事業「ぴっかりカフェ」

申請通り採択いたします。

この取組みは、全国でも事例が少なく、モデル性のある素晴らしい取組みだと期待いたします。

家庭環境等に様々な課題を抱えている生徒たちが、図書館というオープンな場所で、コーヒーやお菓子をつまみながら、地域のボランティア等の大人たちと会話し、そこから自然な形で生徒の悩み相談につながることは、生徒にとって生活そのものが一歩改善できる取組みと考えます。

この取組みを更に他の学校に波及させるため、現在も各高校等から見学者を受け入れているということでしたが、より積極的に見学者を呼び込み、見学に来た方が田奈高校でのノウハウを学び、自分たちの高校等で実施できるような体制づくりを期待しています。

今後は、県の教員委員会等、行政の協力も得られるよう、先進的な事例として実績を積み、将来的には自立的・継続的な取り組みにつながることを期待したいと思います。